

新山 勝久 議員



① 大洲市の観光事業

大洲市の観光事業について

問 市は、大洲城キャッスルステイ事業を計画しているが、議会に対する説明は不十分であった。二回程度、議員に対しての説明会があったが、それも納得のいかない説明であったと思う。うやむやのうちに大洲城に民泊が決まったことは許しがたいものがある。

表向きは大洲城の今後の維持、完全に宿泊費の一部を市に入れるとのことだが、いまだに多くの市民がこの内容を把握できていないことから、市民に知らせてもらうためにも、

私も反対の立場から質問を行う。

3月定例会では、市長は、大洲城は市民、企業、各種団体、多くの方々の寄附によって復元された大洲の宝とも言われていたが、市民への説明の現在の状況を教えていただきたい。

答 市民の皆様への説明については、本来もう少し早い段階から始めるべきではありましたが、災害対応を最優先に全ての事業を進めてきたことから、今の時期になってしまいました。説明が十分ではなかったことについては重く受けとめており、今後も市民の皆様には継続して事業趣旨に関する説明の場を設け、ご理解をお願いしていきたいと考えています。

また、キャッスルステイという事業名については、今後、大洲城城主体験のような事業の内容がわかりやすい呼称で進めていきたいと考えています。

問 大洲城キャッスルステイは11月に実証実験を行うようだが、風呂やトイレ設備などはどのような形で

で行うのか。

答 風呂、トイレの設備については、天守の外に設置する予定です。まず、トイレについては、うかいやイベントなどで使用しているトイレカーを西多間櫓へ配置し、体験事業の利用者が夜間外に出ることなく、短い距離でトイレに行けるよう配慮しています。なお、車両の周りには陣幕を張ることで、直接目に触れないような演出を施すこととしています。

また、入浴施設に関しては、二の丸西曲輪に設置を予定しているカフェと隣接して、ともに仮設の形で整備することとしており、天守閣を見上げながら入浴を楽しんでいただきたいと考えています。なお、入浴施設の整備は、全て事業者側が費用を負担するとともに、そのデザインなどについては、大洲市景観審査会においてもご確認をいただく予定となっております。

いずれも建物の外に設置することで、改修などによる文化財の価値を

損なうことなく城主体験を楽しんでいただけるよう努めていきたいと考えています。

問 大洲城キャッスルステイの宿泊費用については1泊100万円、畳の運搬、布団メイキング、食事代、夜は見張り番がつくとのことだが、市には、その宿泊料のうち何%が入るのか。そして、その何%が維持、保全に回されるのか。

答 宿泊された方から受け取った料金を100とした場合、事業の運用者となるバリューマネジメントに残る利益の割合は全体の4%程度、同じく運営にかかわる一般社団法人キタ・マネジメントに残る割合も4%程度、お城や公園の利用料として市に入る割合が全体の10%程度と見込んでいます。残りの82%程度が経費となりますが、その内訳は、関連施設の整備に係る経費の償還や、市の伝統芸能の出演者に対する謝礼、現地スタッフの人員費、食材など、経費の多くが地域へ還元されますので、経済波及効果は期待できると考えています。